

令和 7 年度 第 1 回全国健康保険協会和歌山支部評議会議事録

開催日時：令和 7 年 7 月 18 日（金）10：00～12：00

開催場所：和歌山城ホール（4 階） 会議室 1

出席者：太田評議員、金川評議員（議長）、貴子評議員、玉置評議員、中村評議員、名手評議員
林評議員、平石評議員（評議員五十音順）

令和 7 年 7 月 18 日に令和 7 年度第 1 回全国健康保険協会和歌山支部評議会を開催し、評議員 9 名中 8 名の評議員が出席。評議会の概要は下記のとおりです。

<議題>

1. 2024（令和 6）年度決算について
2. 2024（令和 6）年度和歌山支部事業状況報告について
3. マイナ保険証に関する状況について

議題 1. 2024（令和 6）年度決算について

事務局より資料に沿って説明。

主な意見・質問

【被保険者代表 A】

2024（令和 6）年度和歌山支部収支見込みについて、収支差（地域差分）がマイナス 3 億 3500 万円と見込まれ、2 年後の保険料率換算で 0.05%上昇の見込みとなっているが、標準報酬が増加していること、適用拡大に伴い被扶養者数がマイナスになっていることを考慮したシミュレーションになっているのか。

<事務局回答>

収入は増える見通しでシミュレーションをしている。適用拡大で被保険者となる方は低賃金の方が多く、医療給付費の伸びのほうが大きくなることも考えられる。そのようなことを踏まえてシミュレーションを行った結果、保険料率の上昇が見込まれる状況である。

【被保険者代表 A】

医療費の負担が増えている状態だが、標準報酬も増加しているので、一人一人が支払う保険料の金額は増えており、当然企業側も負担が増えている。負担がどんどん増えているので、何らかの施策を行ってほしい。

議題2.2024（令和6）年度和歌山支部事業状況報告について

事務局より資料に沿って説明。

主な意見・質問

【被保険者代表 A】

「喫煙にかかる職場の健康づくりの取組に関する効果研究」の発表はどこで公表されているのか。

＜事務局回答＞

協会けんぽでは、調査研究の結果を発表する調査研究フォーラムを開催しており、その場で発表を行った。外部の方にも公表されており、協会けんぽホームページでも公表されている。

【被保険者代表 A】

レセプト点検の査定率について、支払基金の査定率が上昇し、協会けんぽの査定率が低迷しているとのことだが、支払基金・協会けんぽトータルの査定率はどのように推移しているのか。

＜事務局回答＞

支払基金と協会けんぽの合計の査定率については、ほぼ変わらない。支払基金の査定率が上昇した分、協会けんぽの査定率が減少している状況である。

【被保険者代表 A】

返納金債権の回収率について、令和6年度の実績として昨年度の実績76.59%から81.68%に上昇はしているが、逆の見方をすると20%近く回収できていない数値である。20%はかなり大きい数値かと思われるが、全国的に見てどのような順位となっているか。

＜事務局回答＞

協会けんぽ全体の回収率は66.2%となっており、和歌山支部は全国順位で7位となる。

【被保険者代表 A】

協会けんぽ全体として、約3割強が回収できていない状況だが、回収できなかった債権に関して何かしらの対策を行っているのか。

＜事務局回答＞

目標指標もあり、過年度の債権として回収しなければならないという認識をもっている。

【被保険者代表 A】

回収率8割を超えて満足するのではなく、100%は無理であっても、それに近い数値を目指して対応をお願いしたい。

【学識経験者 A】

債権管理・回収と返納金債権発生防止に関して、協会けんぽから国保や別の保険者に入ることによって間違えて保険証を使用する、保険証を返却せずに診療を受けたことが債権の発生要因として挙げられるが、それはマイナ保険証に切り替えることで解決できるものなのか。

＜事務局回答＞

マイナ保険証を使用することで、医療機関側で新しい資格を確認できるため、債権発生防止に資するものとする。ただし、年金機構の処理等でタイムリーな情報が反映されないため、100%ではないと認識している。

【学識経験者 A】

医療機関側が診療報酬の過大請求、不正請求することによる債権管理・回収は KPI に含まれているのか

＜事務局回答＞

KPI には含まれてはならず、KPI の数値としては無資格受診などの利用者側の起因による債権回収となる。

【被保険者代表 A】

ジェネリック医薬品の使用割合について、近畿圏と四国が低い傾向にあるが、地域的な要因が考えられるのか。

＜事務局回答＞

協会けんぽが持っている数値の中では、はっきりと特定の原因は把握できていない。ただ、数値に表れていない、医薬品の供給の関係などの影響があるのではないかとと思われる。

【学識経験者 B】

高齢の方になるにしたがって、ジェネリック医薬品に関する誤解、偏見がみられる傾向があるので、誤解、偏見を解く案内があれば、より使用割合が上昇するのではと思う。

【学識経験者 A】

女性限定ホテル健診について、予算執行率も高く、受診者数も多かったがいかがか。

＜事務局回答＞

昨年度は9月の上期にも追加で実施し、受診者の約4割が過去2年間受診していない方だったので、新規の掘り起こしに大きく成功したと思われる。大きな事業になるので、頻繁に回数を増やせないなど難しい部分はあるが、内容を充実させていきたいと考えている。

【被保険者代表 A】

被扶養者の特定健診のオプションである眼底検査、骨密度検査は会場毎によって異なるのか。

＜事務局回答＞

協会けんぽとしては全て実施したいが、健診機関側の実施体制の関係で会場によって異なっている。

【事業者代表 A】

不適切な施術や不正請求疑惑のある接骨院・整骨院に対し、5 件面接確認を実施したとあるがどのような結果となったか。

＜事務局回答＞

令和 6 年度で面接確認委員会を 5 回開催予定だったが、1 件は未実施となり最終的には 4 件実施した。長期頻回傾向の施術や施術録の作成・管理について、不適切な対応をしているところが多く、指導を行った結果、4 つの整骨院からすべて改善報告をいただいた。

【学識経験者 A】

和歌山支部保険者機能強化予算にかかる経費について、執行率の割合が異なっているので、経費削減の結果なのか、それとも実施が不可能だったのかなど要因を見極め、令和 7 年度実施を継続できるものは続けていただきたい。

議題3. マイナ保険証に関する状況について

事務局より資料に沿って説明。

主な意見・質問

【被保険者代表 A】

従来の保険証では、ジェネリック医薬品を希望する旨のシールで意思表示ができていたが、マイナ保険証に代わることで、データとしてジェネリック医薬品を希望する旨が登録されているのか。

＜事務局回答＞

ジェネリック医薬品を希望するシールを始めた当初とは異なり、現在はジェネリック医薬品の使用割合がほぼ9割を超えている中で、基本はジェネリック医薬品が処方される認識である。またマイナ保険証を利用することで、過去の調剤履歴を把握することができるため、医療機関側でもジェネリック医薬品の意思確認はできている認識である。

【事業者代表 B】

約 7 割の人が SNS 等を使用する一方で、一部の高齢者等は SNS 等を使用しない。マイナ保険証に関する情報について、昔ながらの紙媒体やテレビ CM 等で、SNS が苦手な方にも届くような施策をしてほしい

＜特記事項＞

- ・次回は令和 7 年 1 0 月に開催予定であることを報告